

# 公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

## 研修報告書 (2019年度 助成者)

作成日 2019年 8月 20日

氏名 (フリガナ)	和田萌子 (ワダモエコ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2019年8月12日 (月) ~ 8月17日 (土)
大学名	順天堂大学
学年	5年

今回、交易財団法人日米医学医療交流財団留学助成を賜り、2019年8月12日~17日に渡り研修プログラムに参加致しました。本プログラム中では、医学英語や英語でのケースプレゼンテーションを集中的に上達させるだけでなく、グローバルな視野を広げ、海外臨床留学や海外実習参加に必要な能力を養成することに取り組みました。

嵐のような5日間でありました。全てのプログラムを終えた今、ここにこのプログラムに参加できたことの最大限への感謝を込めて、記していきたいと存じます。

恥ずかしい事ながら、私は今までまともにケースプレゼンテーションを行ったことがありませんでした。自大学の臨床実習(ポリクリ)の中で症例報告を行う機会は多少なりともありましたが、他の医学生がするのと同じようにカルテに記載されている情報をそのまま並べて研修医または指導医に確認のうえ発表するといった形で、なんともストレスフリーなものでした。病歴を聴取する機会はOSCEを含めると何度かありましたが、ケースプレゼンテーションをする機会は救急科での一度しかなく、ほぼ、何もしたことがないと言っても過言ではない状態でした。そのような状態の中で今回へのプログラムの参加は、すなわち、いきなり英語でケースプレゼンテーションを習得するという5日間は、まさに自分にとってとても挑戦的で、前向きに困難に立ち向かう5日間となったのです。

英語での病歴聴取は自大学の授業や講習の中で何度か誘導されながら経験したことがあり、今回の研修でも最終的に英語で病歴聴取が滞りなく行えるようになった上で、医学英語と英語力が向上すれば良いかなと自身の中思い描いていました。しかし、その幻想は初日にいとも簡単に崩れ去りました。周りを見渡し授業が始まれば、英語で病歴聴取は何も見ずにできるのは当然で、医学英語を用いたPBLでは普通の日本語での医学学習と遜色ないスピードと思考力で進み、ただひたすら圧倒されました。そして休憩時間もそこそこに夜にはJABSONの学生を模擬患者とした病歴聴取、先生方へのケースプレゼンテーションに続きました。与えてもらう情報をうまく自分で消化できないもどかしさと、このままではいけないと強い焦燥を感じ、寝る間を惜しんで復習と、次の日どう対処すればよいかといった予習に取り組みました。滞りなく病歴聴取からケースプレゼンテーションに繋げるには、それぞれを別個のものとして必要事項を暗記するのではなく、一つの型を決めて、それ通りに従い、慣れていく方がいいとアドバイスを頂きました。

自分の型を決めて拙いながらも型通りに病歴聴取、ケースプレゼンテーションを英語で行えるようになった頃、乃木先生の授業で教わったRIMEモデルに新たな衝撃を受けることとなりました。私がつどり着けたのはまだ聞いたことをそのまま報告するreporterであり、次の段階のinterpreterに近づく努力をするべきだったのです。その為には聞いたことを自身で解釈し、専門的な医学用語に直し、いらぬ情報を省く、といった次の段階を経なければなりません。この新しい概念に、自分のケースプレゼンテーションを見直しまた私の睡眠時間は削れていくこととなりました。しかし、自分から進んで勉強していくことの面白さと、少しでも多くのことを吸収し持って帰りたいという貪欲さに、毎日が刺激的で、濃厚な日々となりました。

最終日のプレゼンテーションでは、RIMEモデルに基づき洗練した文を上手くプレゼンできず歯痒い思いをしましたが、今後の自分の課題として受け止めていきたいと感じました。

プログラムに参加している途中からは、このプログラムに助成して参加させて頂いているあまりの有難さ

に、追加で授業料をお支払いした方がいいのでは、と考えるほどでした。ここに来ることを選択した過去の自身と、助成してくださった日米医学医療交流財団に溢れる感謝が止まりませんでした。

普段の勉強に追われる日々の中で鬱屈としたこのまま安定を求める閉塞感から、もっと自由に羽ばたき、考えを拡げていい、また拡げるべきなのであるというパラダイムシフトを自分の力で導くことができました。これは、勿論私個人の成果ではなく、この活動を支えてくださった交流財団の皆様、そして **Hawaii Tokai International Collage** の方々や、様々な人に支えられての結果であると存じております。医師としての自己の幸せの追求が、自分の中で消化し潰えることなく、自分の生活環境、ひいては自分に関わる患者そして社会の利益に還元されると考えます。元々は東海大学と神戸大学の学生に向けたプログラムであったと伺っております。そのようなお話を聞く度に、ここに助成を賜り参加できたことを光栄に、そして本当に有難く思います。

本プログラムに参加する前は、自分の英語力の改善が大きくこの参加の意義を占めるであろうと予想していました。しかし、その予想を遥かに超越し、自身の臨床推論能力の至らなさ、医学英語の知識の乏しさに気づかされ、何よりも今の状況を改善しなければならないと思うモチベーションに繋がりました。

加えて、周りの学生の水準の高さにも驚かされる毎日でした。誰しも遅れをとることなく卓越した英語力と医学知識を有し、なおかつ嫌味なく、驕ることなく自身のレベルアップに集中しているその姿に感動すら覚えました。この様な仲間を持ち得たことを心より誇りに思い、また自身の励みとなりました。

本プログラムを海外での医療に興味を持つ後輩に必ず推奨したいと固く決意致しました。そして、後輩に紹介するだけでなく、この教育を受けたものの責任として、自身が習得した上で後世に伝えていきたいと考えております。今回はこの様な素晴らしい機会を賜り、誠に有難うございました。

順天堂大学 医学部 5年 和田萌子